



藤森 皆さんこんにちは。ご苦労様でした。昨日と今日、見学ですね、私の保育園を見ていただいたのですが、とても恥ずかしくて皆さんにお見せするのを少しためらったのですけれど、4月開園で最初の民営化ですので、とても戸惑いました。

公立の先生たちはとてもいい先生が多くて、とても熱心で、すごくいい保育をしているのですが、若い先生がうちは多いねっていう分だけ、少し年配が多いです。そうすると、公立のいい保育とは何かというと、子どもと丁寧にかかわり、子どもと一緒に遊び、子どもの面倒を一生懸命見るといような刷り込みの中で、ずっと長い間やってきて、いい先生なので、一生懸命それをするのです。そうすると、子どもたちは話す相手も大人としか話そうとしませんし、何かをしようとするときすぐ先生を呼ぶし、何かをしてもらいたい。

ですから今日見ていただいて、やっとそう思ったなと思っただのですが、私が皆さんを連れて話しながら、最初に例えば保育室に行って、最初の3カ月、4カ月は子どもたちはみんな私のところに来まして、「園長先生、みてみて」という話しかけをします。給食のときに下りていくと、何人かが手を振って向こうのほうから「園長先生」と言っています。私はそのときに、人気があるのだと思う反面、どうして?と思うわけです。「あなたたち、いま自分で食べているんでしょう。いま積み木をしているんでしょう。何でこちらをいちいち気にするの」と、最初はすごく思ったのです。

食事をしようとするときには、口を開けて、口の中に入れてもらうのを待つ。最初の苦情を言われて、今でも、つい最近苦情を言われた一つは、「開園当初、職員の言葉掛けがひどかった。あんな程度の低い職員をなぜ置いているのか」ということを今でも...? : 広がつて、うちの園は程度が低い。

それは、いくつか問題点があります。パツと聞いただけではなかなか難しいのですが、皆さんが若い職員を育てるために少しお話しします。

今すごく言われているのは、例えば3歳児がお漏らしをしました。うちの先生は、たまたま3歳がしてしまったのを、「それって恥ずかしいことだよ」と言ったということです。「3歳になってお漏らしをしているなんて恥ずかしいことなんだよ」と怒った。そういう子どもを傷つけるような言葉掛けをしている職員は程度が低いと言われました。

そのときにその言葉だけを聞くと、確かにそうかもしれないですが、ここにいくつか、まず問題が出ます。これを民営化をやっている人が、こういう程度の低い職員を民間が雇っているということ、今でも広がっているのですが、ここに問題がいくつあるのです。

例えば、一つ目の問題です。もしその職員が子どもを傷つけるような不用意な言葉掛け

をしたとします。これは、新卒の新採用の先生です。もしそのようにしたとしたら、問題は民営化をしたうちの園ではなく、保育士養成校のせいです。私もは入ったばかりなので、こういう職員を現場の中で次第に研修させていくという意味ですので、「うちが」って言われても、「養成校に文句を言ってくれよ」と思うのです。

ですから、4月、今年の新卒がそのような対応をした、このようなことをしたというのは、みんな養成校の保育士養成の問題点です。あいさつとか、それがまず一つあります。

もう一つ養成校の問題があります。そんなことしたら恥ずかしいんだよ」という言葉は、養成校が年齢的刷り込みで教えている。何歳ならもう取れるはずだという教え方をしている、個々に見るような保育を教えてくださいませんか、3歳でしたら恥ずかしいよ」という言い方をするのです。これは今、保育士の養成校全体の一つの問題です。年齢別に子どもたちの発達を見ようとする。「年齢＝発達」だと思っている、という授業をたぶん受けてきているのだからというのは、二つ目に思います。

三つ目です。これからが今度、問題なのです。「そんなことして恥ずかしいんだよ」と言葉掛けをしたら、というのは何かというと、子どもが恥ずかしがっていないということと、3歳にもなってお漏らしをしても恥ずかしがっていないということとです。どういふことかというと、排せつの自立がきちんとできていないということです。お漏らしをしたことによるうっかり感を、子どもたちは感じていないということです。ということは、今までの公立が排せつの自立をきちんとさせていない。時間でトイレに行かせて、保育していたということなのです。

だから、民営化が「ひどい。こんな程度の低い職員」といって、区役所までいっているのですが、本当は「何を今まで公立はやってきたの」と言いたいですね。3歳にもなって排せつの自立のできていない子たちを、平気で今まで保育をしていたということとです。ということが一つあります。

まず快・不快を感じていない。自分でものを言えない。3歳でそうしたことに對して、自分で恥ずかしいと思っていない。恥ずかしいと思っていることを責めて、口でそういう言い方をしたら、それはひどいかも知れない。そういうことを、どうも保育という言葉だけをとり上げて文句を言うのです。「こういう言葉掛けをしているとは」という言い方をし、そこには排せつの自立という、今の保育の課題が入っていると、私は思います。

昨日、皆さんも見たかもしれないですが、あれは毎週やっているのでしょうか。私は途中から見るのでその番組はどうか分からないですが、「ナニーの何とか問題」ってあるので

すか。外国の、ベビーシッターの相談とか、そういうテレビをやっているのです。皆さん見たでしょうか。

前もやっていて、たまたま昨日も帰ってテレビをつけたら、ちょうどやっている最中だったので、思わず見てしまったのです。アメリカかイギリスかよくわからないのですが、外国の子育ての悩み。両親が、自分はこんなに子どもにとってひどいことをしていた、というのを、ナニーという、ベビーシッターというか指導する人が、いろいろ子育てを指導をする人が、その家庭に何日か入って、その両親を改善していくというか、いい親にしていくという話です。

それをやっていたのですが、たまたま昨日は何かというと、泣けばすぐ行くし、いつまでもベッドの横で添い寝をしているお母さんが、子どもが2〜3歳ぐらいになってもまだお漏らしをしてトイレに行けないというのに対して入って、その親に考え直させるというところだったのです。それを見ていて、うちの保護者が見ていれればいいなと思ったのです。

そういうことで、泣くとすぐ行くとか、トイレに失敗するといけないから時間で行かせているとか、そういうことが丁寧な保育であるかのようにきているのです。それで、そのナニーの人が、親に言っている一つの言葉、あなたたちは何をしなくてはいけないか。あなたたちの子どもが何年か先、大人になって自分で生きていけることをやるのが子どもにとっていいことなのですよ、ということの説明なのです。今あなたがやっている、今の子どもが快適に過ごすようにして、自分が子どもを見ることで自己満足を得ているだけで、子どもの将来を考えていないという言い方で、お説教をするのです。

私たちの仕事は、子どもたちの将来を考えてする仕事です。今の子どもたちではないです。それが私たちは公立を受け継いで、とても大変でした。私は一番問題なのは、転勤があることだと思っているのです。3年ぐらいで変わってしまいますので、長期見通しの中で保育をしようとしていけません。いま心地よくする、いまけがをしないように、いま病気をしないようにということをして、どんどん本人の力を奪っている。代わりにやってあげてしまっているということが多いです。

そういう子どもたちを引き継いだときに、子どもたちを少しずつ自立させていこうと思っているのですが、そこに大きな障害があったのは、保護者は、今までの公立は丁寧で子どものことをよく見てくれたのに、うちの園になったら子どもをほったらかすという言い方になるのです。その辺りがいまだに大変です。

ですから、まだまだ子どもたちは大変なのですが、私からすると3園目ですので、2園

だと特別な子としか遊ばないから、もっといろいろな子と遊ばせてほしい」と言ってきた。そのときに担任はどう思うか。「ああいう環境のほうが特定な子と遊ばなくて、いろいろな子と遊べるのにな」と言っているのです。ということは、「あの子が特定な子と遊ぶのは、ああいう環境だからではないのだ」というように思うのです。

それを迷うところは、こういう保育をしているからだとか、このように教室ではなくオープンにしてみましたからだとか、その理由にまで戻ってしまうのです。うちの職員は絶対そこまで戻らないです。それは前の実績があるということなのですが、こういう保育をすると必ず子どもはかえって落ち着く、子どもは大変ではなくなるという確信があるので、そのせいではないのです。

それが一つと、親もそうです。割と最近ですが、例えばいつまでも泣いている子の親が、民営化に変わって、「まだいまだに泣いている。まだ子どもが落ち着かない。いつになつたら落ち着くのですか」と言いに来ました。私がそれに答えたのは、「もうとっくに落ち着いています」。そのお母さんが「いや、まだうちの子、泣いたりして、全然落ち着かないんです」と言ったので、私は「それは民営化になったから、変わったからではありません。それは違う理由です」。「どんな理由ですか」と言っているので、「それは子どもは何かを訴えたいんです」「何を訴えたいのですか」「決まっているでしょう。お母さんにもっとかかわってほしいって泣いてるんですよ」。そのお母さんはハッと気がついてかかわり始めたら、この間の運動会もいい顔をして、よく遊んでいて、とてもよくなりました。

それを、民営化のせいといつまでも言ったら解決しないのです。同じように、こういう保育をしているからと言ったら解決しないのです。

この間、宮崎で、うちと同じような環境、同じような保育をし始めているところの公開保育をしたときに、ある先生から、私が個人的に「藤森先生、こうやって先生が提案した保育がこんなに日本中に広まってきて、感慨深いでしょう」と言われたのです。私は、「感慨深くありません」と言った。その人は少し斜に構える人なので、私はあえて「感慨深くありません。なぜかという私が提案している保育が広まったのではなく、やっと世界と同じような保育になったと思っただけですから」と言ったのです。

その辺りを、少し勘違いしています。私がそういう保育を提案して広めていると思っただけで、だから反対をする人がいるのですが、そうではなく世界がそういう形なのです。それが基本になれば、その後の議論には行きません。その後の、どう子どもが落ち着くか、どうやりたいかということに行きませんので、それがまず一つです。

ブックレットのサンプルはここまでになります。

続きは会員様限定コンテンツでご覧くださいませ。